

2010～2013 年度 中期経営戦略

～ 独自のビジネスモデルの確立と航空ネットワークの拡充により、
「選ばれるエアライン」へ！ ～

北海道国際航空株式会社(本社:札幌市、代表取締役社長:齋藤貞夫)は、羽田空港再拡張によるビジネスチャンスを実に活かし、いかなる経営環境においても安定的に利益を生み出せる企業への進化を目的として、「2010～2013 年度 中期経営戦略」を策定致しました。

当社は、2007 年度に策定した「2007～2010 年度 中期経営計画」に基づき、この 3 年間で、機材数は 5 機から 9 機、路線便数は 4 路線 17 往復から 9 路線 27 往復へと事業規模の拡大を進め、また、予備機材の導入によって運航品質の向上を図るなど、中期経営計画の着実な遂行に努めてまいりました。

これらを踏まえ、本中期経営戦略では、今後 3 年間の『計画』だけでなく、更なる成長に向けての『戦略』的な要素を主眼とした施策と事業計画の内容について取りまとめております。

当社は、本中期経営戦略に基づいた施策や計画を確実に達成することで、独自のビジネスモデルの確立と更なる航空ネットワークの拡充を図り、「選ばれるエアライン」を目指してまいります。

1. 成長への基軸

企業理念に基づき、いかなる経営環境においても、安定的に利益を生み出せるよう構造改革を図り、あらゆるステークホルダー(お客様、社員、株主、地域社会など)への継続的な還元を実現してまいります。

2. 主要施策

(1) 基本品質の維持・向上

当社の基本品質である安全性、定時性、快適性、利便性を追求し、選ばれるエアラインとしての商品基盤をより強固なものへと進化させます。

(2) 商品競争力・営業販売力の強化

商品に他社にはない魅力を付加し商品競争力を強化するとともに、その商品の販売力の強化に取り組むことにより当社の顧客の層を拡大します。

(3) 企業体質の強化

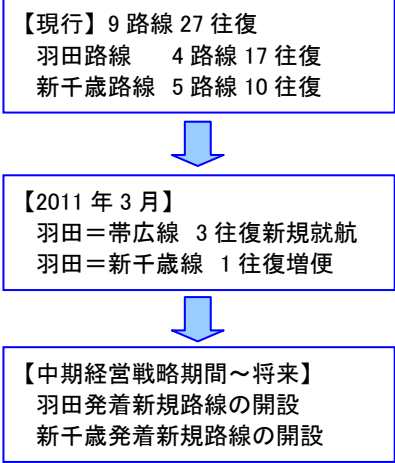
人材(財)能力の強化、個の力を有効に活用できる組織体制の構築により生産性の向上を図り、企業としての社会的責任を果たすことで、永続的な企業活動を行うための体制を構築します。

3. 事業計画

(1) 路線便数計画

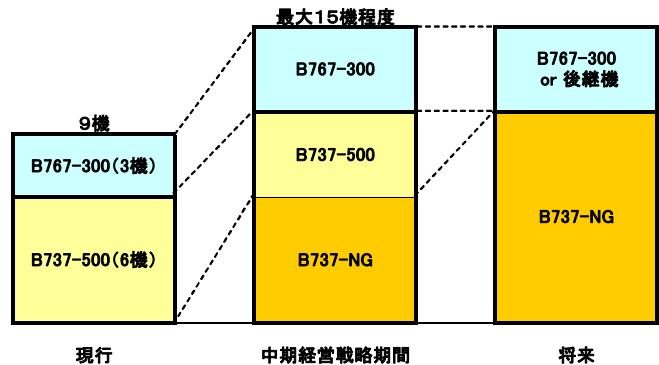
- ① 2010 年度の羽田空港発着枠配分を受け、2011 年 3 月より羽田＝帯広線を 1 日 3 往復 6 便にて新規開設し、羽田＝新千歳線を 1 日 1 往復 2 便増便(10 往復⇒11 往復)します。
- ② 新千歳空港を基点とし、安定した需要や収益性の確保が見込まれる新規路線の開設を検討します。
- ③ 既存路線については、収益性向上の観点重視し路線・便数の見直しを検討します。

- ④ 2013 年度の羽田空港発着枠の追加配分を控え、国内航空ネットワークの更なる拡充に向け、新規路線の開設含め検討します。
- ⑤ 新たな収益源の確保に向け、国内・国際チャーター便運航の実現を目指し、検討を開始します。



(2) 機材計画

- ① 中期経営戦略期間における機材構成は、B767 型機及び B737 型機の 2 機種体制とします。
- ② イレギュラー対応力の強化や国内航空ネットワークの更なる拡充に向けて、最大 15 機程度まで機材導入を進めます。
- ③ 現有の B737-500 型機の後継機及び新規路線展開用機材として B737-NG 型機を導入し、また、同型機の導入にあわせ自社での整備管理体制の構築を図ります。
- ④ 中期経営戦略期間において、現有の B767 型機の使用期間・後継機等の検討を行います。



※B737-NG…B737 型機の次世代 (Next Generation) シリーズで-700/-800 等

(3) 業績目標

中期経営戦略の推進により経営基盤の強化を図るとともに、収入の最大化ならびにコストの適正化を進めることで、2013 年度には営業収入 510 億円、当期純利益 10 億円、売上高営業利益率 3%以上の達成を目指します。

	2010年度 見通し	2013年度 目標	対2010年度比
営業収入	370 億円	510 億円	138 %
営業利益	8 億円	15 億円	188 %
経常利益	8 億円	15 億円	188 %
当期純利益	6 億円	10 億円	167 %
売上高営業利益率	2 %	3 %	-

本件に関するお問い合わせ先: 総務部広報担当 TEL: 011-252-5533